

## IBM Rational Developer for System i バージョン 7.1

### ハイライト

- 従来の IBM i5/OS V5R3や、IBM i 5.4、IBM i 6.1 オペレーティング・システム上での開発をサポート
- 新しいズーム機能や CL のサポートなど、アプリケーション・ダイアグラムの機能を拡張
- Screen Designer テクノロジー・プレビュー、フェーズ 2 の使いやすさが向上
- アプリケーションのデバッグ・プロセスがさらに容易に
- 開発者のパーソナル・コンピューター上でディスクおよびメモリーの必要量を削減

IBM Rational® Developer for IBM System i™ ソフトウェアは、Eclipse ベースの新しいワークステーション・ツールであり、IBM i オペレーティング・システムをベースとする従来のアプリケーションを開発するための戦略的ツールです。今後、IBM WebSphere® Development Studio Client の拡張は行われないため、従来の IBM i ベースの開発には、WebSphere Development Studio for System i および Rational Developer for System i の統合言語環境 (ILE) のご使用をお勧めします。

### 強固なレガシー機能

Rational Developer for System i ツールには、以下のように、これまで WebSphere Development Studio Client Advanced Edition でしか提供されていなかった多くの機能が含まれています。

- IBM i プログラム呼び出し Java™ Platform 2, Enterprise Edition Connector (J2C)
- EIM (エンタープライズ識別マッピング) を使用した、Web アプリケーション用シングル・サインオン機能

- Screen Designer テクノロジー・プレビュー、フェーズ 1。これにより、開発者はグリーン・スクリーンの 5250 画面のデータ記述仕様またはマップを視覚的に作成することができます。
- System i 用の IBM Rational ClearCase® ソフトウェアとの統合

### アプリケーション・ダイアグラムの拡張

IBM Rational Developer for System i バージョン 7.1 ソフトウェアには、従来 IBM WebSphere Development Studio Client Advanced Edition for System i で提供されていたアプリケーション・ダイアグラム機能のほか、以下の拡張機能が含まれています。

### ズーム機能

新しい Rational Developer for System i ツールには、ソース・メンバー内のサブルーチンおよびサブプロシージャーをグラフィカルに表示できるアプリケーション・ダイアグラムが搭載されています。このダイアグラムを開くと、ソース・メンバー、プログラム、サービス・プログラムが、それら相互の直接的 (コピーブックと結合) および間接的 (プロシージャーとプログラム呼び出し) 関係とともに表示されます。その後、ソース・メンバーを展開して下位レベルの詳細を見ることができます。ダイアグラム内のソース・メンバーのグラフィカル表現の中で、各メンバーの呼び出しグラフを表示できます。

## 更新されたプログラム呼び出しサポート

アプリケーション・ダイアグラムが更新され、結合プロシージャやサブルーチン呼び出しに加え、ILE RPG、ILE COBOL、および数理論語学 (CL) ソース・メンバーのプログラム呼び出しも表示できるようになりました。

## CL のサポート

Rational Developer for System i ソフトウェアを使用して CL ソース・メンバーのスクリーンを行い、生成されたダイアグラムにそれらメンバーの情報を追加することが可能になりました。

## その他の機能およびサポートの拡張

IBM Rational Developer for System i バージョン 7.1 ソフトウェアでは、その他にも拡張性とユーザビリティの向上を図って以下のような更新が行われています。

## IBM i Web サービスおよび Java ツールの拡張

プログラム呼び出しウィザードで、Program Call Markup Language (PCML) を生成して、プログラム呼び出し Java Bean に指示を出すことが可能になりました。この Java Bean は、ProgramCall クラスを使用して System i プログラムを呼び出します。PCML プログラム呼び出し Java Bean は、ProgramCallDocument クラスを使用して System i プログラムを呼び出すことができます。生成されたプログラム呼び出し Bean はさらに拡張が可能であり、プログラム呼び出し Bean と IBM i オペレーティング・システム間の通信では Secure Socket Layers (SSL) プロトコルをサポートします。

## IBM i 6.1 オペレーティング・システムのサポート

プログラム・ベリファイヤー、構文チェッカー、コンテンツ・アシスト、エディター・ウィザード、概要ビューは、IBM i バージョン 6.1 ホスト・レベルに更新されています。

## Screen Designer テクノロジー・プレビュー、フェーズ 2

この Screen Designer テクノロジー・プレビュー、フェーズ 2 では、パフォーマンスが改善され、いくつかの問題が修正されているほか、以下のように多数のユーザビリティ拡張機能が含まれています。

- キーワード固有のプロパティ・ページ
- キーワードを追加する際に、キーワードのプロパティを指定できる機能
- 設計ページの設定を構成できるツールバー・ボタン
- 標識セットおよびフィールド値を含む部分プレビュー・ページ機能
- 設計ページおよびプレビュー・ページのいずれからでも画面サイズを制御できるボタン
- XML コメントとしてディスプレイ・ファイル内に格納される画面情報

## 拡張デバッグ・サポート

Rational Developer for System i バージョン 7.1 ソフトウェアには、アプリケーションのデバッグを容易にする新機能が複数含まれています。これにより、以下のことが可能になります。

- アプリケーション内の各 RPG スレッドの選択およびデバッグ、変数の表示および変更、スレッドの休止
- RPG 可変長変数の表示および変更
- COBOL の ODO (OCCURS DEPENDING ON) アレイに含まれるデータ項目情報を素早く簡単に表示
- ILE C プログラミング言語での浮動小数点小数の表示および変更

## フットプリントの縮小

Rational Developer for System i アプリケーションにより、開発者のパーソナル・コンピュータ上でハード・ディスクやメイン・メモリーの必要量を削減することができます。

## ソフトウェア要件

### オペレーティング・システム

IBM Rational Developer for System i は、以下のオペレーティング・システムの 32 ビット・モードをサポートします。

- IBM i5/OS バージョン 5.3 IBM i 5.4、または 6.1 (注: コンポーネントによっては、追加でプログラム一時修正 (PTF) が必要となることがあります。この点については、[www.ibm.com/software/awdtools/iseries](http://www.ibm.com/software/awdtools/iseries) でもご覧いただけます。)

System i サーバーに必要な PTF の詳細は、以下を参照してください。

- Remote System Explorer パースペクティブを開いていない場合は、「Window」、「Open Perspective」、「Other」の順に選択して開きます。「Remote System Explorer」を選択します。ウィンドウのタイトル・バーの左上隅に、現在のパースペクティブの名前が表示されます。
  - 「New Connection」を展開し、「i5/OS」を選択して i5/OS サーバーへの接続を作成します。
  - 新規接続を展開して「Objects」を右クリックします。
  - メニューから「Verify Connection」を選択します。これにより、必要な PTF のうちどれがシステム上に既にインストール済みで、どれがインストールされていないかを示すダイアログが表示されます。
  - Remote System Explorer (RSE) を使用して、System i サーバー上で RPG、COBOL、C、C++、CL または DDS をコンパイルします。i5/OS プラットフォーム上に、コンパイラーがインストールされている必要があります。
- Microsoft® Windows® XP Professional with Service Pack 2 以降
  - Microsoft Windows 2000 Professional with Service Pack 4
  - Microsoft Windows 2000 Server with Service Pack 4
  - Microsoft Windows 2000 Advanced Server with Service Pack 4
  - Microsoft Windows Server 2003 Standard および Enterprise Editions with Service Pack 1
  - Microsoft Windows Vista\* Business、Windows Vista Enterprise、および Windows Vista Ultimate

### 統合開発環境 (IDE)

- Eclipse IDE バージョン 3.2.2。既存の Eclipse IDE バージョン 3.2.2 は、オープン・ソース・コミュニティから提供されている最新の更新を適用している場合のみ拡張可能です。また、以下の Java 開発キットから Java Runtime Environment (JRE) が必要です。
  - Windows Java 2 Technology Edition バージョン 5.0、サービス・リリース 4 用の IBM 32 ビット・ソフトウェア開発キット (SDK)
  - Java Platform 2, Standard Edition (Java SE 2) 5.0, Update 12 for Microsoft Windows
- Java SE 2 Runtime Environment 6.0 はサポートされません。
- 更新のインストール: 更新をインストールするには、Eclipse 実装の更新が必要になる場合があります。前提となる Eclipse バージョンの変更については、更新のリリース文書を参照してください。

(注: 管理者権限のないユーザーが Windows Vista システム上で Rational Developer for System i を利用する場合は、Eclipse を Program File ディレクトリー [C:\Program Files] 内にインストールしないでください。)

### Web ブラウザー

README ファイルおよびインストール・ガイドの閲覧、および Standard Widget Toolkit (SWT) ブラウザー・ウィジェットのサポートには、次のいずれかのブラウザが必要です。

- Microsoft Internet Explorer 6.0 with Service Pack 1 以降
- Mozilla 1.6 以降\*\*
- Firefox 1.0.x、1.5、2.0 以降

### Flash プレイヤー

ツアー、チュートリアル、デモ・ビューレットなど、マルチメディアのユーザー支援プログラムを閲覧するには、Adobe® Flash Player バージョン 6.0 リリース 65 以降が必要です。

\* Windows Vista オペレーティング・システムを実行している場合、サンプル・ギャラリーおよびチュートリアル・ギャラリーでは、新しい高解像度の画面設定「Larger scale (120 dpi)- make text more readable」はサポートされません。この画面設定オプションを選択している場合は、解像度の低い設定 (デフォルトの 90 dpi の設定など) に変更してください。Windows Vista オペレーティング・システムの日本語版では、Mozilla Firefox Web ブラウザーが必要です。他の Web ブラウザーではギャラリーのコンテンツは表示されません。

\*\* Mozilla ブラウザーを使用している場合、ランチパッドの実行には、Mozilla バージョン 1.7 以降が必要です。



© Copyright IBM Corporation 2008

IBM Corporation  
Software Group  
Route 100  
Somers, NY 10589  
U.S.A.

Produced in the United States of America  
01-08  
All Rights Reserved

IBM, IBM ロゴ, ClearCase, i5/OS, IBM i Rational, System i, および WebSphere は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における商標です。

Intel および Pentium は、Intel Corporation またはその子会社の米国およびその他の国における登録商標です。

Java および すべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本文書に含まれる情報は、参照の目的でのみ提供されるものではありません。本文書に含まれる情報の完全性および正確性については、その検証に努めましたが、これらの情報は「現状のまま」提供されるものであり、明示的または暗示的にいかなる保証もするものではありません。また、これらの情報は IBM の現行の製品計画および戦略に基づくものであり、この製品計画および戦略は IBM により予告なしに変更される場合があります。IBM は、本文書または他のいかなる文書の使用に起因もしくは関連するいかなる損害に対しても責任を負いません。本文書に含まれる内容は、IBM (またはそのサプライヤーもしくはライセンサー) によるいかなる保証または説明も提供する、またはその効果があると見なされるものではなく、また IBM ソフトウェアの使用について規定し適用される使用許諾契約書の条項を変更するものではありません。

## ハードウェア要件

### プロセッサ

- Intel® Pentium® III 800MHz プロセッサ以上を推奨

### メモリー

- 512MB RAM (最小)、1GB RAM を推奨

### ディスク・スペース

- 製品パッケージのインストールには 800MB 以上のディスク・スペースが必要です。開発するリソース用として、追加のディスク・スペースが必要です。
- 必要なディスク・スペースは、どの機能をインストールするかにより増加または減少します。
- 本製品のインストールのために製品パッケージをダウンロードする場合は、追加のディスク・スペースが必要となります。
- Microsoft Windows をご使用のお客様は、New Technology File System (NTFS) の代わりに 32 ビットの File Allocation Table (FAT32) をご使用の場合、さらにディスク・スペースが必要です。環境変数 TEMP によって使用されるディレクトリーには、さらに 500MB のディスク・スペースが必要です。

### 解像度

- 1024 × 768、最低 256 色を使用 (より高精細な表示を求める場合は、さらに多くの色数を使用してください)。

### マウス

- Microsoft のマウス、または互換ポインティング・デバイス

### ドライブ

- CD-ROM ドライブ

注: プログラムの仕様およびオペレーティング環境の情報は、プログラムに付属する資料 (README ファイルなど) がある場合にはその資料に、または IBM が公開する他の情報に含まれていることがあります。資料および他のプログラム・コンテンツには、英語のみで提供されるものがあります。

## 参考情報

IBM Rational Developer for System i バージョン 7.1 ソフトウェアについての詳細は、IBM の営業担当員または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、次のサイトを参照してください。

[ibm.com/software/awdtools/wds400](http://ibm.com/software/awdtools/wds400)